

「トマスの福音書」は、1945年に、エジプトのナイル川河畔の洞窟に1850年以上も埋もれていた壺の中から奇跡的に発見されました。これは、イエスの言葉だけを記載してあるもので、「言葉福音書」と呼ばれています。全部で114項目ありますが、そのほとんどが例え話です。一読して何を言いたいのか、良くわからないものが多いのですが、「それらは、イエスが瞑想や悟りのことを伝えるために、例えを使って話したもの」と仮定して、では、一体それが具体的に何の例え話であるのかを解説しています。今回は、その第10回目です。なお、各センテンスの訳文は、上段、中段、下段の順に

(1) Thomas O. Lambdin による英訳

(2) Stephen Patterson and Marvin Meyer による英訳

(3) 「トマスによる福音書」(荒井献著・講談社学術文庫)による和訳の順に記載しています。

---

(61) Jesus said, "Two will rest on a bed: the one will die, and the other will live."

Salome said, "Who are you, man, that you ... have come up on my couch and eaten from my table?" Jesus said to her, "I am he who exists from the undivided. I was given some of the things of my father." "I am your disciple." "Therefore I say, if he is destroyed, he will be filled with light, but if he is divided, he will be filled with darkness."

(61) Jesus said, "Two will recline on a couch; one will die, one will live." Salome said, "Who are you mister? You have climbed onto my couch and eaten from my table as if you are from someone." Jesus said to her, "I am the one who comes from what is whole. I was granted from the things of my Father." "I am your disciple." "For this reason I say, if one is whole, one will be filled with light, but if one is divided, one will be filled with darkness."

(61) イエスが言った、「二人の男が一つ寝台に休んでいるならば、一人が死に、一人が生きるであろう」。サロメが言った、「あなたは誰なのですか。一人から出たような人よ。あなたは私の寝台に上り、そして私の食卓から食べました」。イエスが彼女に言った、「私は同じ者から出た者である。私には父のものが与えられている」。サロメが彼に言った、「私はあなたの弟子です」。イエスが彼女に言った、「それ故に私は言うのである、『彼が同じであるときに、彼は光で満たされるであろう。しかし、彼が分けられているときに、彼は闇で満たされるであろう』」

---

サロメという女性は、このトマス福音書ではここで初めて出てきます。他の福音書で、サロメという名の女性は何人が登場しますが、イエスの弟子であったと思われるサロメは、マルコの福音書に下記のように登場します。

---

【マルコ 15:40】

また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。

---

この一番近い人が居る状況のところに、サロメもいるわけですから、サロメはとてもイエスに近い人であると同時に、多分私の感覚では、サロメも、マグダラのマリアと同じ様に悟っていたのだらうと思います。

そのとても近い弟子であったサロメが、イエスに向かって次のように言います。「あなたは誰なのですか。一人から出たような人よ。あなたは私の寝台に上ぼり、そして私の食卓から食べました」

サロメはイエスをよく知っています。イエスは修行の先生であり瞑想の先生です。そのサロメが「イエス先生」を前にしてあなたは誰なのですかと聞いています。これはその前のイエスの言葉を受けての、イエスに向けた質問です。

イエスは、「二人の男が一つ寝台に休んでいるならば、一人が死に、一人が生きるであろう」とサロメに言いました。ですからサロメは、では、先程ベッドに上がったり、食事をしたりした、あなたは一体どちらの「あなた」なのですかと聞いたわけです。

「二人の男」というのは、今までの解説でお分かりのように、マインドが肉体を統括しているいわゆる「人間」と、「本来の自分」、いわゆる「魂」の人です。イエスは「どちらかが生きている時は、どちらかが死んでいる」と言っています。死んでいるわけではありませんが、どちらかが現れていない、消えているということです。イエスがそう言ったのでサロメは、「それでは、さっきのあなたは誰なのですか。悟っている人よ。あなたは私の寝台に上ぼり、そして私の食卓から食事を食べました」

と聞いたのです。つまり肉体的に動いているわけですから、「あなたは『本来の自分』ではなく、肉体の『あなた』なのでしょう？」と聞いたのです。

そこでイエスは、「悟っても肉体がある。それは親から貰ったものだ。それはまたこの世での魂の棲家、宮殿でもある。だが、そこに魂が住んでいなければ、そこは暗い闇だ。

魂がちゃんとそこに存在していれば、宮殿は光り輝くものとなる」と答えました。この会話は、状況から判断して、イエスとサロメの二人だけのくだけた会話です。ベッドの上の会話かもしれません。もしかすると、サロメは笑いながらイエスの脇腹をつつきながら聞いたかもしれません。

でも、この会話がトマス福音書に残っているということは、はて、どういうことでしょうか？ トマスか誰か他の弟子が、このイエスとサロメの二人の会話を盗み聞きしていたのでしょうか？ しかし、盗み聞きは考えられません。では、この会話の内容を、トマスや他の弟子は、どうやって知ることができたのでしょうか。

イエスが他の弟子に、この話をしたのでしょうか？ サロメとの二人だけで交わされた会話を、たとえその中に教えに関連する内容を含んでいたとしても、たぶん、イエスから他の弟子に言うことはないと思います。でも、その話が、現にトマス福音書に残っているということは、サロメ自身が仲間の弟子達に、「あのね、イエスはこんなことを言ったよ」と話をしたのだらうと思います。

ルカの福音書 17:34 にも、同じような表現の箇所があります。

「寝室に二人の男が寝ていれば、一人は連れて行かれ、他の一人は残される」

このセンテンスは印象が深いので、仲間からも忘れられずにルカの福音書にも同様に組み込まれたのだらうと思います。ただし、ルカの福音書のこの言葉についての前後の説明文は、後から別の人が書き加えたもので、私にとってはまったく意味不明でした。今回、このトマス福音書のサロメとの会話の中で、同じイエスのセンテンスが出てきて、私は初めて、このイエスの言葉の言われたシチュエーションや意味が理解できました。

「二人の男が一つ寝台に休んでいるならば、一人が死に、一人が生きるであらう」

悟っても、肉体があるのだから、それが現れているときは、魂は現れていない。ですから、悟っても決して魂だけになって日常を生活しているのではないということです。悟っても、宮殿である肉体を維持していかなければなりませんから、当然と言えば当然のことです。

また、このような会話が、弟子たちの中でフランクに気兼ねなくされていたということでもあります。当時の修行の仲間は小じんまりした集団で、とても親密な関係だったのだらうと思います。

その中で、サロメは、「ねえ、ねえ、聞いて」って感じで仲間にこの話をしたのかもしれませんが。

最愛の尊敬する先生であるイエスを、少し面白がっている感じかもしれませんが。きっと、このサロメの話には、弟子達もみんな笑いながら聞いたことでしょう。

「笑雲先生」

「なんだい、小松茸」

「サロメとイエスはどんな関係なのですか」

「資料が少ないので、どんな関係か、はっきりは分からないね。でも、当時の弟子たちは周知のことだったろうと思うけど」

「イエスは、サロメと一緒に食事をして、一緒にベッドにあがったということですか。

では、愛人、恋人ですか」

「ああ、そうも読めるけど、どうかわからない。ポイントは、それではなく、修行や悟りの話、愛や欲の話、生や死の話、肉体や魂の話、それらを弟子達に、たくさんしていたということだ」

「サロメにもしていたのですか」

「そうだね。問われればイエスは、それを聞きたい人に、場所や時間などに関係なく、どんどん話して聞かせていたと思う」

「サロメは、自分でイエスの弟子だと言っていますからね」

「そうだね。弟子には機会を捕えて丁寧に説明していただろうね」

「サロメに語ったその悟りの奥義を、次の項で述べているようですよ」

「おや、そうかい、では、さっそく、次に行こう」

「はい」

(62) Jesus said, "It is to those who are worthy of my mysteries that I tell my mysteries. Do not let your left hand know what your right hand is doing."

(62) Jesus said, "I disclose my mysteries to those who are worthy of my mysteries. Whatever your right hand does, your left hand should not know what it is doing."

(62) イエスが言った、「私は私の奥義にふさわしい人々に私の奥義を言う。あなたの右の手がしていることを、あなたの左の手に知らせるな」

このあたりの項目がこの順番で並んでいることに、意味があると仮定して解説してい